

【事務局】

皆様、こんにちは。

それでは定刻となりましたので、ただいまから東京都北区おたがいさま地域創生会議の令和5年度第1回会議を開催させていただきます。

本日はお忙しい中、またお暑い中、ご出席をいただきまして、ありがとうございます。それでは、本日は16時30分までの会議を予定してございます。どうぞよろしく申し上げます。

それでは、まず委員についてということで、資料1をご覧いただければと思います。本日につきましては、欠席のご連絡はどなたからもいただいてございません。なお、町会・自治会の代表につきましては現在調整中となっております。

続きまして、委員の委嘱についてでございます。区役所内の異動によりまして、健康部長とまちづくり部長が変更になってございます。一言、ご挨拶いただければと思います。

【委員】

健康部長でございます。また、皆様と一緒に話しさせていただきます。よろしく申し上げます。

【委員】

まちづくり部長です。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。また、事務局も異動によりまして変更がございましたので、自己紹介をさせていただきます。

【事務局】

地域医療連携推進担当課長でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

改めまして、高齢福祉課長でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、資料の確認をさせていただきます。まず、事前に資料1から6について送付させていただいてございます。資料7につきましては、本日席上の配付となっております。不足がありましたら、事務局までお申しつけください。皆様、よろしいでしょうか。

それでは、ここからの議事の進行は会長にお願いいたします。なお、この会議は

公開となっております。会議の記録を取らせていただきますので、発言の前に名前を名のっていただきますよう、よろしくお願いいたします。

会長、よろしくお願いいたします。

【会長】

はい。皆様、それではよろしくお願いいたします。

早速議題に入りたいと思います。

まず、1番の第1層生活支援コーディネーターより、(1)令和5年度生活支援コーディネーター活動計画に関してのご説明をお願いいたします。

【北区社会福祉協議会】

北区社会福祉協議会でございます。よろしくお願いいたします。

社会福祉協議会で第1層生活支援コーディネーターをしております、まず資料3ですね。お手元の事前にお配りをしているものの、資料3に今年度の第1層生活支援コーディネーターとしての事業計画をお配りさせていただいております。この活動方針の1番から5番にポイントになるようなことをお書きしているんですが、ちょっとただ文章で書いてある部分だけだと、なかなか分かりにくいと思うので、こちらの画面でパワーポイントを作りまして、具体的にこういうことというふうなことをご説明さしあげながら、ご説明をしていきたいなと思っております。

まずは、活動方針の1番の生活コーディネーターについて。

資料4、その裏面になりますけれども、まず3圏域、王子、赤羽、滝野川、それぞれ地域包括ケア連絡会を毎年開催しているんですが、今年のこの予定についてご覧いただければというふうに思います。

王子については10月24日の日にちに決まっております。「地域のつながりの大切さ」という、コロナになってからずっと同じテーマを積み上げをする形で、今年も準備をしているという形です。

次は赤羽なので、ご担当者にご説明してもらおうと思うんですが、ちょっと飛ばして3番のほうから。滝野川圏域のほうも日にちが決まっている、11月15日に北とぴあで「その人らしい地域とのつながりを見つけよう」と。これも去年に引き続いて、このテーマで積み上げをしていこうというようなことを、今具体的な内容について、順次検討しているところでございます。

今の赤羽圏域については、ここも学生さんとのつながりということで準備してい

るので、こんな計画ですよという報告をご担当者にしていただく予定になっています。どうぞ、こちらに。ここはちょっと画面にも出てございます。

【担当者】

浮間高齢福祉課あんしんセンターです。どうぞよろしく願いいたします。

令和5年度の赤羽圏域、包括ケア連絡会に向けての動きについて、ご報告させていただきます。

赤田圏域では令和3年度より3か年計画で、東洋大学の学生を地域活動につなげるための活動を行ってきました。3年目となる今年度の連絡会は、令和5年12月23日土曜日午前、赤羽会館大ホールで開催を予定しております。こちらの、皆様がお持ちの資料のほうには未定となっておりますが、先週の金曜日、私どもの会議がございまして、令和5年12月23日土曜日午前、赤羽会館大ホールということで予定させていただきました。

地域の方と学生がお互いをもっとよく知るために、昨年度は赤羽圏域の包括職員が東洋大学の学生寮の見学などに行ったことは、3月の創生会議のときに既にご報告させていただいております。その後の活動について、ご説明させていただきます。

4月25日に東洋大学ボランティア支援室を訪問し、職員の方との関係をきずくことができました。地域活動シートを冊子として置かせていただき、学生が閲覧できるようにしたほか、いつでもボランティア募集のチラシなどを持ち込んで、掲示板に掲示していいですよというお話をいただきました。

5月26日にはゼミの先生方と学生を地域活動に参加させてもらうための仕組みについて話し合いをしました。学生に包括支援センターのサロン、各地域包括支援センターは独自にサロンを展開して、高齢者の居場所づくりをしているんですけども、そちらのほうに1日ボランティア体験として参加してもらおうという、ワンデイプログラム、そういったアイデアが話し合いの中で出てきました。そういったところの活用もしていきたいなというふうに考えております。

昨年度の連絡会では、学生が地域活動に参加することに敷居が高いと感じているとの意見が出たため、まずは同じ空間で学生と地域の方が一緒に活動することで、お互いのつながりが強まるのではないかという意見が出ましたので、先日7月11日、赤羽圏域で活動している6団体と学生との東洋大学と一緒に、団体の活動を体験するといった企画を実行いたしました。

東洋大学のボランティア支援室を会場としまして、地域の方は学生に対して折り紙を教えたり、脳トレ体操の実演をしたり、地域の方の持つ力を学生たちに伝えていました。学生たちも初めは消極的なタイプだったんですが、体験が始まると生き生きと参加する様子が見られています。

体験会の後は、学生が校内を案内する学内ツアーを実行しました。学生が事前に案内したい場所を考え、介護実習室や調理室、ふだんは学生たちも行ったことがない教室の案内をしてくれました。地域の方も大学の目新しさに関心を持ちながら、校内を回っていました。

地域の方の反応を見てみますと、一番関心を持っていたのが渡り廊下。かなり見える、赤羽の街。ふだんの生活では見ることもない、気がつかない景色を見つけたようで、外を見ながら皆さんでお話し等されていました。

学生の皆さんは東洋大学のよさを一生懸命伝えようとしていて、参加された地域の方たちも楽しんでいらっしゃる様子でした。

交流会では学生から、「ボランティアに行ってもいいんですか」と地域の方にお声かけがあったそうです。学生にとって、地域活動に参加する敷居が少し低くなったのかなと思います。

ボランティア支援室の職員からも、学生たちがこんなに生き生きと活動するとは思っていなかったという感想をいただきました。

12月の連絡会では、今までの活動の振り返りをしながら、培ってきたものを地域に生かすためにどうしたらいいかというところを話し合っていきたいと思います。

以上、赤羽圏域からの報告となります。

【北区社会福祉協議会】

はい、ありがとうございました。という形で、赤羽圏域は既に活動しながら、12月に地域包括ケア連絡会を開催するという計画になってございます。

ではここからは、また資料3のほうに戻っていただいて、活動方針を順番にちょっとパワーポイントを使いながら説明していきます。よろしく申し上げます。

【北区社会福祉協議会】

北区社会福祉協議会、第1層生活支援コーディネーターをやっております。よろしくお願いたします。

それでは資料3のほうは文書ばかりで分かりにくいかなというふうに思いました

ので、私のほうでそれに沿った内容をパワーポイントで資料5という形で作らせていただきました。ちょっと、見やすいほうでスライドでも流させておりますので、見ていただければと思います。

まず、令和5年度生活支援コーディネーターの活動計画ということで、1番としてこれは毎年上げさせていただいているんですけども、生活支援コーディネーターに対するヒアリングの実施と課題への支援ということで、16生活支援コーディネーターさんが活動されていますので、そこの各エリアのほうを一つ一つ回らせていただきながら、この自己評価チェック票を見ながら、昨年度はPDCAサイクルに沿ってどのような活動をしてきたか、そして今年度はどういう活動予定なのかというのを、お一人1時間30分ぐらいを目安にさせていただきました。こちらのほうは既に終了しております。

どのような内容を皆さん書かれているかというのを、ちょっと参考までに、今日委員でも入っていただいている委員の許可を取って出させていただきました。

(1)のところの年度の活動予定のところは、主に重点項目、今年度の重点項目というふうに言われるものを皆さんに書いていただいているのですが、これは令和4年度の委員のほうで挙げていただいた四つになります。

上から2番目のところですね。開催できなかった協議体があったということで、委員の担当されている豊島エリアのほうは、豊島五丁目団地という大きな団地があるエリアになります。そちらのほうは、やはり先日行われましたおたがいさまのアンケートであったりですとか、やはり困難ケースが多いというところで、豊島エリアでも非常に課題になっていて、そこで何か仕組みづくりができないか、協議体ができないかというふうに悩まれていたところを、できなかったところをいろいろ取組状況を重ねて、そして地域に向けてのコメントというところで、協議体「カムカム健康とよご男子」という名前になりますが、そこが立ち上がりましたので、そちらを新たに発展を目指していくというような計画になっています。なので、今年度はこの時期に向けてのコメントがまた一番左のPLANのところに入りまして、さらなる計画を立てるというところで、今年度どうやって活動していくかというようなヒアリングをさせていただいています。

そして、2番になります。2番は第2層生活支援コーディネーターの活動目標の共有と、行動記録(数字)の見える化の検討というところなんです。第2層生活支援コ

ーディネーターの活動目標を共有して、まずは生活支援コーディネーター自身の活動が目標ごとにもっと活動が皆さんに分かりやすくご報告できるようにということ、第1層としても支援したいというふうに思っております。今年度ちょっと、2層のコーディネーターさんの活動がなかなか見えづらいというところもありまして、ちょっと私の稚拙な文章で恥ずかしいんですけども、Facebookのほうを不定期に今掲載のほうをさせております。資料6番のところに、今まで載せたFacebookの抜粋の記事のほうを今回添付させていただきましたので、こちらのほうも後で併せてご覧いただければと思います。

例えばなんですけれども、一番上に書いてある西が丘エリアのほうでは、この後もちょうと出てきますが、地域の中で男性がなかなか、やはり集いの場に出てこないというところで、男性シニアの孤立化という問題が大きく、私たちの中で課題だなというようなところを共有しておりますので、そこを何とか打破できないかという、男性が楽しめるイベントとして、「親父のたまり場」として赤羽にあります自然観察公園のほうで、ちよっとかまどを使ったイベントを開催したというような記事ですとか。あとは2番目の王子二丁目の出張八百屋さんのほうは、王子二丁目エリアにある八百屋さんが残念ながら閉店になってしまって、こちらのほうは生活支援コーディネーターさんのほうが地域の方々と協力しながら、町会・自治会の集会所の前で八百屋さんの車で来ていただいて、活動をしているというような内容になっています。このような小地域で取り組まれていることが、なかなか地域の方々には伝わりにくいところがありますので、少しずつですが、このような形で発信していければなというふうに思っています。

そして、こちらのほうが、現在の生活支援コーディネーターさんがつけている行動記録、自分たちが訪問したら、それはどこに何回行ったか、どういう方々と一緒に接したかというような数字を立てているものになります。こちらのほうが、ちよっとなんかためになる数字にはなるかと思うんですけど、なかなかふだんの業務とこの数字を併用させることが難しいというような声も出ていますので、今年度に関しては、生活支援コーディネーターの中から三人プロジェクトチームに入ってくださいながら、地域の中で数字も見える化できるように、これから検討していきたいというふうに思っています。

そして、3番目です。生活支援の担い手の養成と居場所づくりの支援ということ

で、この先ほどもちょっと触れさせていただきましたが、北区の全高齢者実態把握調査データによって、社会的孤立状態にある男性の割合が女性に比べて57.5%と非常に高いというのが、ちょっと私たちも分かってはいたものの数字として出てくるとなかなかショッキングな内容として、昨年度研修のほうをさせていただいたところです。こちらのほうの課題を受けまして、男性主体の居場所づくりについてつながるきっかけづくりにできないかということで、長寿支援課さんと一緒に、担い手づくり講演会のほうで、男性にターゲットを絞った講座のほうを開催させていただくこととなりました。

今日、お手元のほうにできたばかりのチラシのほうに配付されているかなというふうに思います。「定年後、何をする？俺の自分探し講座」という形で、こちらのほうは65歳以上の男性及び関心のある方、民生委員さんとか支援されている、ご心配されている方々、そのような方々を対象に、まずは講座のほうを開催させていただいて、そして、さらにそこと連動して、そういうふうに来ていただいた方が地域につながるようなミニ相談会とか体験会につないでいきたいというふうに今準備をしております。

そして、4番目になります。生活支援コーディネーターに対する研修の実施ということで、これは8月8日に、もう既に予定がされている研修のほうを、ちょっとご報告させていただきます。

水戸市のほうで認知症すごろくという、水戸にある包括支援センターさんが、認知症のほうを地域の方々と楽しく勉強しながら考えるきっかけづくりをしないかという、きっかけづくりができないかというところで作られたものになります。こちらのほう、今いろんなところで非常に勉強にもなるし、地域の方々と自然に検討できるツールになるということで、実際私たちもやってみたんですけども、本当に自然とそれについて話したくなるようなすごろくになっています。生活支援コーディネーターは地域に出て、地域課題を話し合うような、そういう協議の場をたくさん持つようにというのが、一つ目標にはなっているんですけども、いざ地域に出て「地域課題を話し合いましょう」というのはなかなか難しく、こういうようなすごろくという楽しいツールを使いながら、地域の人たちにこの課題の裾野を広げていくというようなことをやりたいと思っていて、8月8日に水戸のほうからお越しさせていただいて、研修を開催することになりました。これを私たちが学んでから、さ

らに地域に落としとしていけるように、これからちょっと進んでいけるよう、話し合いをしていきたいと思っています。

機会がありましたら、ぜひ地域の方々も「ああ、認知症すごろくって何か言っていたな」ということで、ご参加していただければうれしく思います。

そして、5番です。多様な協議の場づくり支援というところで、これは昨年度の創生会議でもお話ししましたが、現在このような形で地域の協議の場が少しずつ立ち上がっています。今年度も2層のコーディネーターさんと一緒に学び合いながら、そしてやはり協議の場を継続して運営していくのは大変なことなので、そちらのサポートのほうを、こちらのほうで一緒にご支援をしながら、さらなる推進を進めていきたいと思っています。

計画のほうは以上となります。

【北区社会福祉協議会】

という形で、今年度2層としては、2層の方たちのサポートなり、いろいろな研修というのを包括しながらやっていきたいなというふうに考えているところでございます。

ここまでのところで何かございますか。

【会長】

はい、ありがとうございます。北区社会福祉協議会から進行していただいておりますが、委員の皆様、これまでの取組に関しまして、ご質問とかコメントとかいただければいかがでしょうか。

すみません、私から。ありがとうございます。

最初の東洋大の学生さんとの連携の取組に関しまして、非常に大学のほうもいい感触を持っていらっしゃるということだったんですけど。学生さんのほうのバックグラウンドといえますか、どういった学部の学生さんですとか、あるいは自ら申し込んで来られたのかとか、何かその辺は分かる範囲でもし教えていただければいかがでしょうか。

【担当者】

今回の7月のイベントに関しましては、東洋大学ライフデザイン学部1年生の方で、私ども大学の先生の方とも連携を深めているんですが、そちらの先生にご協力いただきまして、授業の時間を使いましてというところで、会場は先ほど言いまし

たようにボランティア支援室を利用してというところで開催させていただきました。

例えば、ボランティア支援室さんと親交というか、関わりができたことによりまして、ボランティア支援室にて何というんでしょう。連携している、ボランティアを目指している学生さんとかもいらっしゃるとか、そういった情報とかもいただいておりますので、これからも親交を深めていきまして、こういった手だてがあるか考えていきたいと思っています。

【会長】

ありがとうございます。1年生ですと、まだこれから3年、4年も長くお付き合いできるからよろしいかなと思います。また、確かに授業と連携されているというのは学生さんにとっても、どうしてもこの指とまれですと、もともとそういうボランティアな学生さんしか集まってきませんけども、逆に授業の一環となるとあまり初めは興味が、おっしゃっていましたがように消極的な方も、何か目覚めるきっかけにもなるかもしれませんので、ぜひ連携協定を結んでいらっしゃると思いますので、そういった取組でまた広げていただければいいんじゃないかなと思いました。ありがとうございます。

【北区社会福祉協議会】

ちょっと補足していいですか。

【会長】

はい、どうぞお願いします。

【北区社会福祉協議会】

ライフデザイン学部の名前が、今年から福祉社会デザイン学部に変わられて。というのが今までライフデザイン学部というところがあったんですが、今年の4月から白山校舎にあった社会福祉学科との間で統合されて、より福祉系の学生が4月から増えたということがあります。それで、名前もライフデザイン学部から福祉社会デザイン学部に変更になったというようなことがあります。

それもあって、いわゆる福祉系の学生がたくさん、もともとのライフデザインもいたし。ライフデザインはどちらかというと介護系とか、あと子ども支援とか、というような学生さんたちが多かったのですが、ここに伝統的な社会福祉を学ぶ学生さんたちが入ってきた。それ以外にも情報科学とかスポーツとか、赤羽台のキャンパスにはあるので、もともとはそういったライフデザインを中心としたゼミとか授

業とか、先生を通じたつながりが強かったのですが、先ほどボランティア支援室がこちらに。もともとは白山キャンパスにしかボランティアセンターがなかったのですが、週2日ボランティアセンターが窓口を開くようになったということなので、いわゆる福祉系の学部の学生さんだけじゃない学生さんたちもそこを通じて。去年もこういう国際医療の学生さんたちなんかは、それこそインターナショナルな留学生が半分ぐらい、200人ぐらいあそこはいらっしゃると言ったかな、国際医療。・・・は日本人の学生でということなので、必ずしも福祉という視点だけじゃない学生さんが、・・・少し幅が広がってつながり始めるかなというような状況になっております。

【会長】

ありがとうございます。

せっかくの機会ですので、何かご質問、感想とかございましたらいかがでしょうか。

委員、何か追加でもし、大丈夫でしょうか。何かコメントをいただければと思います。

【委員】

豊島高齢者あんしんセンターで生活支援コーディネーターをしております。

では、ただいまの発表にあったように、豊島五丁目団地が課題があるように、・・・団体にご支援いただきながら、「カムカム健康とよご男子」というプロジェクトを担当させて・・・この間4回目で集まりもできたところになります。

豊島は王子圏域に入りますので、王子圏域のほうも、豊島含めてほかの包括も孤立というところの対応は変わらないというところはあるので、今回の圏域の連絡会のほうでも引き続き孤立を課題にやっていくんですが、なかなか簡単に解決するところではない。なので、できるだけ多くの人と孤立について考える機会を持つことができないかなと、今までまず関わりのある自治・町会さんたちを中心に参加いただくんですけど、もちろんその方たちは十分活動されていて、とてもすごく活動ができていらっしゃる方々、その方たちプラスアルファ何かもうちょっと広がりというところが。また、どうやってやってみたらいいかなというような・・・ことも、どうしたらいいかなということが多くて。ただ、ちょっと前期高齢者というところに、逆に絞ってその方たちと一緒に孤立化について考え、新たなアイデアとか、

もちろん・・・とったりしながら、話し合いを今回してみたらいいかなと思っています。

実際の事例の、今考えているのは王子圏域の中で出た・・・考えとして、65歳で定年退職をされて、両親を見送られて地域で生活することになり、そのとき自分が体調を崩して入院されました。そのとき、自分子どももいなくて、ご親族との付き合いがあまりない中、いとこの方、ようやくそのときは、手術のときに保証人になってくださった。しかし、次はもうないからよと言われてしまった。さて、どうしようというご相談に来られた方もいらっしやっています。やはり今すぐ直の課題ではないけれども、やはりちょっと先の課題みたいなのが・・・、その辺を早い段階から考えていけたらなという感じで、今回のこういった話をさせていただこうかなと思っています。

以上です。

【会長】

はい、ありがとうございます。ほかには、委員の皆様、いかがでしょうか。

委員、お願いします。

【委員】

ご説明、ありがとうございます。

実はこの資料を頂いて、私は初めて社協さんが活動をやっているのを知りまして、本当にすみません。フォローさせていただきます。しっかり読み込んで、バネにしていきたいと思います。よろしくお願いします。ありがとうございます。

【藤原会長】

ありがとうございます。ほかはいかがでしょう。

では北区社会福祉協議会、もう少し続けていただいていいですか。何か追加で。

【北区社会福祉協議会】

活動計画については、以上なんですけど、この後、皆様方にご意見いただきたい。前回、実はいろいろな活動の場のあの話をさせていただいて、ちょっと時間切れになっちゃって、皆様にご意見いただく時間がなかったので、もし、今日この後いただけるようであれば、もう少し、やはり何をやるにも活動する場所がとても大事になっているので、その辺の少し実態とか、あとこういう課題があって、皆様方いろいろなお知恵をいただけないかというようなことの話、今日できればしたい

なと思っていたんですが、お時間はその形で大丈夫でしょうか。

【会長】

よろしいでしょうか。

では、すみません。お続けいただきますよう、お願いします。

【北区社会福祉協議会】

前回のおたがいさま創生会議のところでは、北区の中でもいろいろな形の集いの場というのができていますよというような話。そこには公共の施設だけではなくて、例えば、・・・で一軒家や一人で住んでいる高齢者のところで、自分が出ていけないけど、自分の一軒家のところにみんなが来てくれれば、そこでサロンができるよとか、いろいろな形で、いろいろなところを開拓をしていく必要があるけど、なかなか今、難しいかなど。特に社会的な背景としては、この3年間、コロナでいろいろな活動がずっと停滞ぎみになっていたんですけれど、今回5類に移行ということで、いろいろな活動が再開し始めたり、新しいグループができ始めているのですが、一方で、そういうグループが、自由に、定期的に、継続的に活動できる場があるかという、そこが今、とても課題になっているので、そこに1層としても、あるいは2層の皆さん方も、そういう場所の開拓ですとか、情報収集ですとか、いろいろなことに取り組んでいるので、ちょっとその辺のところからお話をしていきたいんですが、今日は例として、ここにマップを今、お出しいただいているんですが、飛鳥晴山苑のエリアで、今、活動場所というのをどういうふうに課題認識とか、今後の展望とか考えているのかということで、兎相のコーディネーターから少しお話をいただいて、それをちょっと話題提供しながら、皆さん方にご意見いただきたいなと思っています。

よろしくをお願いします。

【担当者】

飛鳥晴山苑高齢者支援センターです。よろしくお願いたします。

この私たちの場、町、マップづくりを、五、六年前ぐらいにちょっとうちのセンターで作りまして、可視化する状況を事業所内でみんなに共有できるように作らせていただきました。

飛鳥晴山苑の地域性といいますと、まずここが飛鳥晴山苑の施設がございます。社会福祉法人なので、やはり空いているスペースとか、地域の方に活用していただ

けるような取組を行えるような形にはなっております。そして、私たちの晴山苑のエリアというのはありがたいことに、ここに、こちらですね。プラットフォームといこの家が混ざりまして、高齢者の方が通えるような場所が、このエリアにあります。実際、ここからこの憩いの家の通路としては、やや、なだらかな道なので、坂はなく、スムーズですけども、こちらのエリアの方ですね。ここがやっぱり坂が、飛鳥山ということだけあって、坂が多いですね。

私たちのエリアのサロンとか、憩いの家の取組とか、いろいろなプロジェクトに関して、やはりこの坂の上の方たちが、こちらに通っていくというのがとても大変なことで、実際Googleで調べてみましたら、ここに「ゲーテの小道」という有名な坂があるんですけども、そこから晴山苑まで約900メートル、健常者で約12分程度ということでした。これが高齢者になりますと、やはりそうはいかないのかな。下りはいいけど、帰りは必ず坂があるということで、やっぱり通いづらい。そして、こちらのプラットフォームさんとかに通うにも、ちょっとそちらも検索してみましたら、やはり同じように900メートルありまして、やはりプラットフォームさんの最後の都電をちょっと越したところに坂があるので、どうしても坂がネックになってしまって通うのにも、通いづらいという、ちょっと課題が見えてきております。

そして最後にやっぱり一番考えられるのは、こちらのエリアが、自治会さんにも、皆さん自治会館とかあるかと思うんですけども、どうしてもこちらは住宅街で、自治会館がないエリアなんですね。そして、ちょっと通える場所というのが本当になくて、ここに滝野川体育館はあるんですけども、滝野川体育館を使うにも、やはり4人団体で登録してください。3か月前に申し込んでくださいということ。なかなか高齢者が気軽に、ちょっと場所を借りて、ちょっとお茶飲み会しようよとか、サロンしようよというのにも、しにくいエリアであるなということが、ここ数年、地域を見てきて課題だなというふうに感じているような現状です。

【北区社会福祉協議会】

エリアとしては、滝野川から西ヶ原にかけてということなんですが、滝野川と西ヶ原の間でやっぱり少し段差というか、坂があって。滝野川だけだったら、あまり高低差はないですけども、それだけのところであるとか、あと公共施設がないわけじゃないけれども、例えば体育館だと体育のための施設なので、高齢者が集まっ

て、孤立予防しようという目的ではないので、そういう目的じゃないとそもそも、なかなか借りるのが難しいため、いろいろあって、あるけどなかなか使いにくいみたいです。そういったことなんかも、やっぱり公共施設はどうしても目的別に整備されているものなんかもあるので、こういうものをどういうふうにしようかとか。

そもそも高齢者も、若い高齢者から、最近プラットフォームの介護予防拠点施設ですが、ここの通所の方なんかも、100歳近くの方が介護予防で通われていたりしますから、もう介護予防の対象年齢というのは60代から100歳ぐらいまで、40歳ぐらいのギャップがあって、すたすた歩いて来れたり、自転車に乗る人もいれば、本当に歩いて5分ぐらいのエリアじゃないと、今は難しいよというのがあって、そういう意味では、あれですよ。何か歩いて行ける距離のデータが、こっちも提供できるようになっていましたか、パワーポイントで。パワーポイントにはないのか、その前に。

これはちょっとお手元の資料にも配付しているんですが、これの説明というのは、特にない。ごめんなさい。私の仕切りが悪かったですが、やっぱり無理なく休まずに歩ける距離だというのが、これです。やはりそうなってくると、すごくこう、近場で集まれるような拠点を、どうしても確保していくというようなことが、もしかしたら、西ヶ原、滝野川は、ご立派なお屋敷もあるので、そういうところが炭火焼なんかしていただければあるかもしれません、じゃあ気軽にピンポン、「あなたの家、大きいでしょう、だから貸してくれませんか」というわけにもいかないの、そこをどういうふうにしていこうかなというあたり、飛鳥晴山苑さんではこれが。ここにあるというのは、何かここで活動しているという意味ですか。

【担当者】

これはですね。おたがいさまネットワークになりまして、こちらの丸い、おたがいさまネットワークと書いてあるんですけども、こちらは地域の高齢者の方に関して、ちょっと見守り的な、ちょっと意識持って対応してくれるよという商店さんとか、接骨院さんとか、いろいろな町にある、地域の商店さんに登録していただいている、マップになっております。お店です、コンビニとか。

【北区社会福祉協議会】

そういうところで、例えば、うちは会社で会議室があるよとか、休んでぜひ使っていていいよなどあれば、そういうことなんかもあるんですけども。やはりそういっ

た企業とか、学校とか、公共施設だけじゃないいろいろなところに、高齢者がちょっと集って、お話ができるようなところの開拓を、これからどんどんしていかなきゃいけない。特に、若くて自転車に乗れる人は、本当に晴山苑にいただけじゃなくても、もうちょっと自転車に乗って、別のエリアにも行けたり、北とぴあにも来れますけれども、先ほどからお話ししている中でいうと、本当に超高齢者80代、90代、100歳にも届いて、介護保険を使わずに、自宅で生活している人たちも珍しくなくなっていますので。それが目指す姿だったので、ただ、そういう人たちを孤立させない、介護予防につなげるという意味では、なるべくいろいろな住んでいる近くに、そういう場所を何とか探していく必要があって、これは包括だけとか、あるいは役所だけではなかなか探せなくて、恐らく王子・北区で、いろいろ今日来ていただいている委員の皆様方のお知恵を借りながら、こんなところどうだいとか、こういうところについては、ちょっと声かけられるよとかあれば、そんな話を今日ちょっと皆さん方にご意見いただきたいなと思っていたところでございます。

あとベンチの話。ここのところ、休まずに歩いて行ける距離というのが、何メートルぐらいですよというデータがありましたけれど、ちょっと休めば、もうちょっと歩けるんじゃないかという話で、ベンチを置いて、今、なくなっちゃいましたけれども、ちょっと高齢者が買物ついで、どこか行くついでに、ちょっと腰をかけられる場所というのがないかということで、これもあれでしたね。何かの集まりのときのきっかけになって、ベンチを介護事業所さんが寄附してくれる話になって、今、10台ぐらい寄附してもいいみたいな、これ言ってもいい話でしたか。あってですね。場所がなかなか難しく、今、あれですよ。新聞配達、何というんですか、新聞販売所。

【担当者】

昨年の地域包括ケア連絡会で、訪問看護ステーションさんの事業所さんが、やはり支援に入っていて、屋外訓練ですかね。歩行訓練で外出した際に、やはり座るところがなくて、どこで休憩したらいいのか、やはり大変なんだというお話もあり。私たちは、高齢者あんしんセンター、飛鳥晴山苑のエリアも、やはりベンチというのがほとんどないというのをつくづく感じておりました、たまたまその連絡会でちょっと話が合致しまして、じゃあちょっと私は、飛鳥晴山苑のエリアでベンチを置いていただけるようなところにちょっとご相談してみるという提案をさせていただ

いて、訪問看護ステーションさんは、ベンチを提供するというのを、一緒に共同でプロジェクトを行ってみようかという話になりまして、現在まだ2点なんですけども、町の明治通り沿いにあります、毎日新聞さんなんですけど、置いてもいいよと言ってくださって、1か所置くことになっております。

そしてまた、訪問看護ステーションさんで、ここにあると本当に助かるんだけどなというご意見いただきまして、じゃあそこの通りにある商店で、どこか置いてもらえるところはないかなというふうに私のほうで探させていただいて、たまたま郵便局があったので、郵便局さんのほうにお声がけいたしましたら、本当に快く「ああ、いいですよ」ということで、おっしゃってくださいまして、今、2か所置くことになっております。

【北区社会福祉協議会】

昔はちょっとベンチといえば、バス停とかいろんなところにあったんですけど、管理の難しさとか、いたずらされちゃうとか、いろいろあって、ほとんど今、なくなっちゃっているんですね。なので、滝野川、西ヶ原のエリアでは、ベンチを置いてくれるところを探しているというようなことなので、ぜひ、今日ここからの時間、少しあまりお時間がないんですが、いろいろと情報提供とか、お知恵があったら、皆さんからいただけたらありがたいなと思っております。

すみません。よろしく申し上げます。

【会長】

すみません。進行ちょっと。どのくらい、最後二つ目のテーマ時間……。4時半……。

【事務局】

・・・5分ぐらい。

【会長】

5分ですか。じゃあ、頑張って5分間ですが。

様々な場をどう探していくかというふうな課題を投げかけていただきましたですけども、委員の皆様、何かアイデアとか、情報とかございましたら、いかがでしょうか。いろいろなパターンがあるということですね。空き家とか、空き店舗もあれば、既に今何か営業されているようなお店の一角ですとか、そういった場所もなければ、もうベンチとか、何か集まれるような場所とかきっかけといいますか、ツ

ールみたいなものがあればというご意見だと思いますが、いかがでしょうか。

では、委員、お願いします。

【委員】

今、晴山苑のエリアで発表いただいたとおり、本当に私たち一つのアんしんセンターが持っているエリアで、・・・があって、今、ご報告があったとおり、この問題があちこちで起こっていると思います。

通いの場、立ち上げですとか、私ご近所体操とか支援に回っていますので、実際にされている方たちとお話をする機会が非常に多いのですけれども、やはり場所の問題、私たち、王子区役所も、こうやっていろいろ言ってきて、私たちもこれやって楽しいし、よかったんだけど、場所も一緒に何とかしてくれればいいのよと、本当によく聞きまして、本当に区民センターみたいなのが近くて、ちょうどよければいいんですけれども、そこを取るために皆さん四苦八苦しているのがありますし、それさえもないところには、本当に集まりの場がない。今言っていた飛鳥山の近く、ああいう場所が、各エリアに幾つかあるというのを生活支援コーディネーターは把握をしている。

なかなかそこに例えば、お寺であったりとか、この間、私、児童館に訪問して、例えばこんなところで、場所の相談はしてみたんですけど、なかなかそう簡単ではなさそうなおところであったので、本当にそこについては、いろいろな活動をしていますよという活動のほうのアピールは大分できているような気がする中で、場所はないんですよというアピールというのは、あまり今までしていないのかなとか思っています、実はそんなことが問題だったのという地域の方もいらっしゃるのかもしれないなとは思っています。

【会長】

ありがとうございます。ほかはいかがでしょう。

ちょっと時間がもったいないので、私のほうから、二つ、三つ。

確かに、この場所というのは一番大事な問題だと思います。できればやっぱり常設といいますか、いつでも、誰でも使えるような空き家とか、空き店舗みたいなものがあれば、どんどんいろんな団体さんが使いたい、使いたいというふうなことで、盛り上げてくださると思うんですね。

ちょっと話は長くなるんですけど、私も実家が京都市内にありまして、母親が3

年前に亡くなって、空き家になってどうしようということで、実際、今、地元のNPOの方に使ってもらっているんですね。

やっぱり母親が一人で住んでいたときは、私は、やっぱり昼間デイサービスか何かで使ってもらおうと安心かなと思ったんですけど、やっぱり年寄りであった母親からすると、空き家とかスペースを貸すというのは、イメージも湧かずに、何となく嫌みたいな感じだったんですね。それは何となくいろいろ話している中で、うまく解決したんですけども、案外情報がないんですね。離れている息子からすると、家を放置しておいて、いろいろトラブルが起こったりすることの心配のほうが非常に多かったんですけども、かといって、すぐ売ったり、貸したりするのも面倒であったりとか、勇気も要るといようなことで、ずるずるといっているようなご家庭も多いかと思えますね。

その辺り本当に草の根的にどう周知していくかというところがやっぱり大事かなと思っていまして、たまたまNPOの方だったんで、そういうアンテナを張って、それも社会福祉法人をやっている方々の有志のNPOだったので、すぐつながって、借りてもらえるようなことになったんですけど、結構ニーズは多いかと思えます。

やればやるほど、いろいろな展開があるということで、北区でも、ずっとしもぞうハウスさんなんか、そういうきっかけ、いい形で開かれたんだと思いますので、ぜひそれは頑張っていたきたい。

もう一つは空き店舗は先ほど第一部の地域包括運営協議会の中でも出ていましたけども、サポート店とか、お店屋さんとの連携が重要かというような議題が出ていまして、単にお店屋さんとしては見守るとか、何か認知症の方にも優しいサービスを提供するというだけではなくて、やっぱりそういうきっかけの中で場所を貸してくれたりとか、そういうきっかけにもなる展開があると思いますので、これは第一部でも申し出たんですが、区がいろいろお店屋さんとか、民間企業と連携されている中で、場所としても活用してもらおう可能性もあるかもしれませんので、できるだけたくさんリストを上げていただいて、ちょっとずつアプローチしていくというのも大事かなというふうに思いました。

あとちょっと思いつくままで申し訳ないですが、例えば、移動の問題がありますね、坂道の。あれも一つの発想の転換なんですけども、ポールウォークというのが

ありますよね、ノルディックウオーク。あれは先ほども滝澤課長とも話していたんですけれども、区内でもそういうポールウオーク、ノルディックウオークを普及しましょうというような団体さんが入ってきて、いろいろ地域振興課のサポートをもらったりしてやったりしますが。ポールウオークというのは、非常にあれは坂道とかにも強くて、坂道が越えられない方のトレーニング用に使っていたりとか、ある地域なんかで防災用に、万が一のときに、水にのまれないように、高台に上がるように、トレーニングでいうと、後期高齢の方にもポールやったりということもありますので、これちょっと逆転の発想で、介護予防、健康づくりも兼ねて、そういう会場へたどり着くというためにも、何かそういうポールウオークなんかも考えていくというのも一つかなというふうに思っていた次第です。

もう一点だけ、すみません。私ばかりで申し訳ないのですが。ベンチを作るといふようなところも、これも非常に企業さんが寄附していただくのも一つあると思うんですが、一方、最近男性の社会参加のきっかけがなかなかないということで、これはヨーロッパのほうなんかで、ホームシェッドという取組があります。何かというと、日曜大工ですね。日曜大工をしようというようなことで、男性を集めてちょっと結構本格的な家具を作ったりという取組をやっている。ちょっと日本にも、そういうのに関心持っている団体さんなんかもあるみたいなんですが、例えばベンチなんかでも、これはベンチ作るころからやろうじゃないかということでしたら、ひよっとすると男性なんかが入ってこられるかもしれませんし、また自分たちの作ったベンチなら、やっぱり愛着も湧くかなと思うんですね。何かそういった、何か一つのきっかけで、いろいろな展開というか、アイデアなんかもあるんだなと思って、非常に何か期待して聞いておりましたので、ありがとうございました。

すみません。私ばかりちょっとしゃべってしまって、あれなんです。ほかの委員の方々、よろしいでしょうか。大丈夫でしょうか。

では、すみません。小原委員、最後にちょっと、締めていただくというか、この部分を。ちょっと、次の二つ目の議題に移りたいと思うんですが、よろしいですか。

じゃあ、すみません。

【委員】

確認だけ。表示されているようなところがあったら、社協さんに相談すればいいですか。

【北区社会福祉協議会】

そうです。

【会長】

情報提供ですね。

【委員】

それだけです。

【会長】

ありがとうございます。

それでは、非常にこの場所の問題、大きな課題ですので、恐らくちょっとこの高齢福祉の分野だけでは解決できないところもあるかと思imasuので、区のどういった、それこそまちづくりなのか、住宅なのか分かりませんが、そういったところも一緒に、うまくやっけていってらっしゃるといところも大事かなと思imasuので、ぜひまたちょっと総合的な取組としてのお考えいただければいいのではないかなと思imasu。ありがとうございます。

それでは続きまして、二つ目のその他で、事務局からいかがでしょうか。

【事務局】

その他で1点、机上に配付させていただきました資料7、北区全高齢者実態把握調査フォローアップ事業について、簡単にご説明をさせていただきたいと思imasu。

事業の目的でございますけれども、令和3年度に実施をいたしました全高齢者実態把握調査の調査結果を分析しまして、各圏域の状況に応じた介護予防等の取組を検討するために、PDCAサイクルに沿って事業が展開できるように、あんしんセンターの職員を対象とした研修や、現場支援をするものでございます。

2の令和4年度の実績でございますが、1から3につきましては、東京都健康長寿医療センターにご協力をいただきまして行ったものでございます。

一つ目が、調査の結果分析と、北区全域及び19の地域ごとのリーフレットを作成してございます。

また、分析結果のデータの集計と分析結果については、全高齢者あんしんセンターへ説明をし、ヒアリングを行ったところでございます。

(3)でございますが、以下、お示しの八つの圏域におきまして、把握した課題に対する活動をPDCAサイクルに沿って、立案・実施していけるように、伴走支

援を行っていただきました。そして、その結果の報告会を今年の5月24日に行ったところでございます。

また、(4)でございますが、(1) あんしんセンターでの分析結果の周知、また地域の状況に合わせた介護予防等の取組、そして地域課題の解決といった取組についての検討も行ったところでございます。

3は、令和5年度の実施予定の事業でございます。こちら(1)と(2)につきましては、どちらも健康長寿医療センターにご協力をいただいております。

(1)、令和4年度8圏域で伴走支援を行ったところでございますが、ここから3圏域でモデル実施をさせていただきます。表にお示しの地域で、表にお示しのおりの内容をこれからやっていくというところでございます。

(2)でございますが、こちらは新たに手挙げ方式になりますけれども、4圏域でPDCAサイクルに沿った取組の伴走支援をするということになってございます。

最後、(3)でございますけれども、各高齢者あんしんセンターにおきまして、地域課題解決に向けた取組を引き続き実施していくというところでございます。

報告は以上です。

【会長】

ありがとうございます。フォローアップ事業に関しまして、ご質問、ご意見いかがでしょうか。よろしいでしょうか。またこれは追加で、またフォローアップし、フォローアップ事業をフォローアップしていただくということでお願いしたいと思います。

それでもう時間がそろそろきてしまいましたので、その他全体としまして、委員の皆様からご発言とか、追加で何かコメントはよろしゅうございますでしょうか。

はい、どうぞ、委員。

【委員】

1点だけご案内させていただきます。お手元に俺の自分探し講座というカラー刷りの資料がございますでしょうか。こちらの長寿支援課のほうで、例年、毎年1回、地域の担い手づくり講演会というところで行っている事業なんですけれども、今年度は高齢者の男性のほうに、スポットを当てまして、自分探し講座というところで、長野県の実績のある長寿社会開発センターから、こちらのコーディネーターをお呼びして、ぜひ高齢者の社会参加というところをメインにご講義をいただきますので、

9月20日水曜日、北とぴあ14階スカイホール、50名先着ということでございますが、何かこちらの会場にいらっしゃる皆様で、男性、北区内の65歳以上の男性とか、関係のある方いらっしゃいましたら、ご案内をお願いしたいと思います。

私からは以上です。

【会長】

ありがとうございます。ネーミングがいいですね、俺流というやつですね。

ありがとうございました。そろそろお時間になってまいりました。

ちょっと最後に一言だけ付け加えさせていただきますと、先ほどの空き家の問題ですけれども、身近な好事例というか取組として、世田谷区が、たくさんやはり空き家がありますので、区の外郭団体で、世田谷トラストという財団が、空き家の登録制とか、マッチングの仕組みなんかを作ってやっております。そういったところで、かなり区内の空き家を貸したい人と借りたい人が、うまくこう使えるということで、それこそ、公共何とかの家とか、何とかのハウスみたいなものが、そういったところを使ってやっていたらいい事例もありますので、もしまた、機会があれば、世田谷トラストというのを見ていただければと思います。

私たちもちょっと親しくしていますので、もし何か勉強会とか必要でしたら、お声がけいただければと思います。

それでは、委員の皆様、ご協力いただきましてありがとうございました。3圏域の地域包括ケア連絡会に参加ご希望の方は、また、教えていただくということで、まだまだコロナが予断を許さない状況で、また熱中症のリスクも高い中、地域の活動をいろいろ慎重にやっておられる部分も多いかと思いますが、様々な団体の皆さんからアイデアをいただきながら、また引き続き取組を進めていければと思っています。

それでは会を閉じるに当たりまして、副会長から一言お願いしたいと思います。

【副会長】

皆様、大変お疲れさまでございました。

今、話をずっと伺っていて、場所の話があって、ちょっとどきっとして、場所がないという話で、こっちに振られたらどうしようかな、なんて思っていました。

役所は固いところで、いろいろ区民会館とか、体育館とかありましたけど、体育じゃないから駄目なんだとか、ベンチの話をするれば、ちょっとまちづくり部長がい

ますけど、恐らく道路占用許可がどうか、いろいろなものがあって、お答えできないところは非常に心苦しいなというふうに思っています。

ただ、そういう中で、自分もそんなに発想を豊かなほうじゃないんですけども、やっぱり思い浮かんだのは、空き店舗とか活用なのかなと思っていました。

その中で、まさに会長からお話がありましたけども、実は、会長の京都のお話し、どこかで自分も聞いたことがあって、成功していると聞きましたので、まず最初の一步が大変なのかなと思うんですけど、成功事例があれば、それを積極的にPRしてくということも必要だと思いますし、先ほどいろいろな活動が認知されてきたけど、場所がないんだよねという話で、まだその場所の話はしていないんだと言っていましたけど、ついでに場所もないから困っているということも、どんどん発信していくといいますか、そこも含めていろいろなことを共有してもらおうということが、やっぱり大事なんじゃないかなと思いました。

行政としてできることが何があるのかというのは分かりませんが、やはり福祉というのは、いわゆる危機管理とか、災害とかと同じで、多くの人々が共通認識を持てる分野だと思いますので、恐らく同じ目線で、その一つのものを解決しようという気持ちになれる分野だと思いますので、やっぱり少し踏み込んだ働きかけというのでもいいんじゃないかな。もちろん当然やっているとは思いますが、さらに踏み込んでやってもいいんじゃないかなというような、そんな感想を持ちました。

あと今日の議題の中でずっと見ていて、自分、事前に見ていたんですけど、この事例ですよ。Facebookで出していた。これは説明してもらえるのかなと思ってちょっと興味があったんですけど、細かい説明なかったんですけども。王子の八百屋さんがなくなっちゃった話とかも、これ実は自分の家の近くの肉屋がなくなって、いつも奥さんに毎週日曜日に車出せと、遠くの肉屋まで行かされているんですけども、まさにこういう小さな成功事例といいますか、取組というのは、ぜひ強力に発信していけば、自分もこれならできるとか、私も貢献することができるという気持ちがどんどん広がっていくと思いますので、ぜひこういった取組は、今後も続けていただけたら、区として大変うれしいなというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

お願ひばかりで、実のある話はできないんですけども、いずれにしても多く

の方の知恵といえますか、工夫、それを重ねることが、地域包括ケア充実していく一つの鍵になると思いますので、ぜひ今後も皆様方のご協力をお願いしたいと思います。

これをお願いいたしまして、閉会の言葉とさせていただきます。本日ありがとうございました。